

学校点描^{プラス}+

お祭りが終わると駆け足で秋がやってきました。生徒も制服登校に切り替えています。

《K中学校》

NO.8

R4. 9. 13

担当：校長

7月23日から県中学校総合体育大会が県内の各会場で開催されました。陸上競技では、女子共通砲丸投で3年M・Rさんが第8位に、男子共通砲丸投で3年H・Rさんが第6位に、女子共通走り高跳で3年K・Aさんが第8位に入賞しました。卓球競技では男子個人で2年のN・Tさんが3回戦まで進み敗退しました。

8月26日～27日は、新庄まつりの最終日、そして土曜日と重なりましたが、全国PTA研修大会が県内の全地区において開催されました。お忙しい中、S市会場、T市会場、SA市会場に参加していただいた保護者の方々、本当にありがとうございました。

8月30日の出張は、中学校校長と高校校長の代表の話し合いでした。話題は、令和8年度からS北高校とN高校が統合する準備状況についてと、現中学2年生の入試から、S北高校の定数が減になり、N南高校のビジネス科がK産業高校に移ることについてでした。そのためにも、今年度は10月2日に地区の中学校2年生の保護者と生徒対象の『地区高校フェスティバル』が開催されます。今の中学1年生、2年生から公立高校入試は変わってきます。各学年で出す、進路情報については、しっかり目をとおしてください。

8月31日は少年の主張大会に、3年生のS・Rさんが出場しました。出会った医師と家族への感謝から夢を語った弁論です。9月8日には、2年生のF・Rさんが英語弁論大会に出場しました。題目はChanging Worldです。9月、10月は、生徒も教員も個々の能力を伸ばすことを学校全体の目標にしています。

見逃されるモノトーンの風景

9月6日から3年ぶりの泊を伴う修学旅行が始まりました。

出発式で修学旅行実行委員長のH・Mさんは「待ちに待った修学旅行の日です。いろいろな状況の中で修学旅行を許してくれた先生方、保護者の方々ありがとうございます。…自分の目と耳とを使って、しっかり感じ取りたいです。」と感謝を述べました。旅行先は福島県です。

出発式は校舎の中のランチルームで行いましたが、予想以上に大勢の保護者の方が見送りに来てくださいました。出発式も終わり、玄関に行くと一人のおばあさんが玄関先で立っています。「孫のお見送りをしたくて来ました。」校舎の中までは遠慮して入らずにずっと待っていたようです。玄関から孫のS・Aさんが出てくるのをじっと待って、ようやく出てくると、ご自分のスマホで写真を撮ろうと構えました。S・Aさんも、おばあさんに向かってポーズをとります。恥ずかしがらないのがいいですね。ちょっとスマホに悪戦苦闘していましたので、わたしが代わりに撮影してあげました。撮影した写真をお見せすると大事そうにしていました。いい風景です。

いよいよ出発するバスにむかって大きく手を振る保護者の姿。それに応えて車内から手を振り返す子どもの姿。感謝とそしてお見送り。これも何とも言えないいい風景です。

第三者として見てもこんな風景は、心が温まるものです。

Title：『優しい嘘』

ある日、蒸し暑い平日の日中に、都内の電車にお母さんと小学3年生の長女、年長さんの次女の親子が乗り込みました。お母さんの友人がいるマンションに遊びに行くためです。電車の席はち



ようど3両目の先頭の位置に3人分空いていました。二人の娘たちは、一目散に駆け寄って、空いている3人分の席に腰を下ろしました。右側の隣には野球のユニフォームをきた男子高校生。左側にはサラリーマンの男性。二人とも、少し腰を上げて、ゆったりと座れるようにスペースを空けてくれました。こんなところにも優しさは潜んでいるものです。電車の好きな次女は大喜びです。なぜかというとなら3両目とは言え、先頭付近ですので、前の車両やその前の車両の運転手も見ることができるからです。行儀よく座るお姉ちゃんとは違い、ずっとキョロキョロしています。

何個目かの駅で電車が止まったとき、お腹の大きな妊婦の女性が乗ってきました。座席はもういっぱいでしたが、満員電車ではないので、つり革を使って立っている余裕はあります。

そのとき母親は、真夏にお産を経験したときのことを思い出します。そして、自分の席を譲ろうとしたとき、小学生の長女が、すくっと立ったのです。「いつの間にかこんな優しい娘になったんだ」とお母さんはうれしく思いました。すると、さらに、娘を手で制して、隣の野球のユニフォームを着た男子高校生が立ちました。「あの、僕の席に座ってください。」と若い妊婦の女性に話します。若い女性は、うれしそうでしたが、申し訳ない気持ちもありました。高校生はバットや大きな鞆を抱えていたからです。「ありがとう。でも、あなたもたくさんの荷物で大変でしょう。わたしは大丈夫です。」と断りました。すると高校生は続けてこう言いました。

「僕は次の駅で降りるから平気なんです。」

そう言って、電車のドアの前に立ちました。妊婦は、お礼を言って、高校生の席に座りました。その一部始終をみていた母親は、今もこんな高校生がいるんだとうれしくなりました。

電車は、すぐに次の駅に停車しました。重そうな鞆とバットを抱えた高校生は降りていきました。ドアが閉まるブザーが鳴ったとき、次女がつぶやきます。

「どうしてお兄ちゃんまた乗ってきたの？」と。

前の車両を覗くと、あのユニフォームの高校生が再び前方の車両に乗ってきたのです。

やさしい嘘でした。電車の中で起きたちょっとした風景のお話です。

こんな風景達は、日常の中にモノトーンのように起きているけれど、ついつい見逃していることが多いものです。優しい風景は、心を穏やかに目を凝らさないと決して映らないシーンばかりです。



出発式から3日経った今日。3年生が帰ってきます。家族の出迎える風景に目を凝らします。

Title : 『優しい嘘』 (BS番組 : 『沁みる夜汽車より』)

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp